

バージョン 6.0.2



WebSphere Process Server へのマイグレーション

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、15 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、WebSphere Process Server for z/OS (製品番号 5655-N53) バージョン 6、リリース 0、モディフィケーション 2、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： WebSphere® Process Server for z/OS
Migrating to WebSphere Process Server
Version 6.0.2

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2007.3

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2006, 2007. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2007

目次

第 1 章	マイグレーションの概要	1
第 2 章	使用すべきでないフィーチャー	5
	廃止リスト	5
	WebSphere Process Server バージョン 6.0.2 で使用すべきでないフィーチャー	6
	WebSphere Process Server バージョン 6.0.1 で使用すべきでないフィーチャー	7
	WebSphere Process Server バージョン 6.0 で使用すべきでないフィーチャー	8
	WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1.1 で使用すべきでないフィーチャー	11
	WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1 で使用すべきでないフィーチャー	11
	WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0.2 で使用すべきでないフィーチャー	13
	WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0.1 で使用すべきでないフィーチャー	13
	WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0 で使用すべきでないフィーチャー	13
特記事項		15
	プログラミング・インターフェース情報	17
	商標	17

第 1 章 マイグレーションの概要

マイグレーションとは、製品の構成情報とユーザー・アプリケーションをある製品から別の製品へ、またはある製品バージョンから同じ製品の別のバージョンへ保存するために使用される手順です。既存のアプリケーションおよび構成情報を新しい環境で使用するには、それらを前の製品から WebSphere Process Server へ、または前のバージョンの WebSphere® Process Server から新しいバージョンの WebSphere Process Server へマイグレーションする必要があります。

WebSphere Process Server バージョン 6.0.2 および WebSphere Integration Developer バージョン 6.0.2 は、以前のリリースとの間に以下に示す互換性があります。

- WebSphere Integration Developer 6.0.1.x から WebSphere Process Server 6.0.2 への配置がサポートされます。
 - WebSphere Integration Developer 6.0.1.x を使用して作成および生成されたアプリケーションを、WebSphere Process Server 6.0.2 サーバーに公開することができます。
 - WebSphere Integration Developer 6.0.1.x 内で作成、生成されたアプリケーション、および WebSphere Integration Developer 6.0.1.x からエクスポートされたアプリケーションを、WebSphere Process Server 6.0.2 サーバーにインストールすることができます。
- WebSphere Process Server 6.0.1.x で WebSphere Process Server 6.0.2 の成果物を実行することはできません。
 - WebSphere Integration Developer 6.0.2 で作成されたアプリケーションを、WebSphere Process Server 6.0.1.x サーバーに公開したりインストールしたりすることはできません。このようなコンテンツは、WebSphere Process Server 6.0.1.x では正しく実行できません。また、コード生成で変更があった場合、WebSphere Process Server 6.0.1.x 上でアプリケーションが正しく稼働しなくなります。
 - WebSphere Integration Developer 6.0.1.x で作成されたアプリケーション、および WebSphere Integration Developer 6.0.2 で生成されたアプリケーションを、WebSphere Process Server 6.0.1.x サーバーに公開したり、インストールしたりすることはできません。コード生成で変更があった場合、WebSphere Process Server 6.0.1.x 上でアプリケーションが正しく稼働しなくなります。
 - WebSphere Process Server 6.0.2 サーバーから serviceDeploy を使用して生成されたアプリケーションを、WebSphere Process Server 6.0.1.x サーバーにインストールすることはできません。コード生成で変更があった場合、WebSphere Process Server 6.0.1.x 上でアプリケーションが正しく稼働しなくなります。
- 上記のものを除き、古いバージョンの WebSphere Process Server からそれより新しいバージョンへの成果物の配置は、サポートされません。

マイグレーションの手順は、マイグレーションのソースまたはターゲットによって異なります。通常、製品のマイナー・バージョンアップ (例えば、WebSphere Process Server 6.0.1 から WebSphere Process Server 6.0.2 へのアップグレード) の場合は、マイグレーション・ステップとして、保守パックのインストールのみが必

要です。これは、アップグレードが既存のインストールに対して「適所」で行われ、構成とアプリケーションが既存のインストール内で保存されるためです。このような保守パックのインストールについては、WebSphere Process Server インフォメーション・センターの『インストール』>『製品保守の適用 (Applying product maintenance)』を参照してください。前の製品から WebSphere Process Server へマイグレーションする場合、または同一製品のメジャー・バージョン間でマイグレーションする場合 (例えば、WebSphere Business Integration Server Foundation から WebSphere Process Server へ)、マイグレーション手順で、マイグレーション・ツールを使用して、ソース成果物を新規 WebSphere Process Server バージョンの成果物に変換する必要があります。このトピックの以降の部分では、前の製品から WebSphere Process Server へのマイグレーションまたは同一製品のメジャー・バージョン間でマイグレーションについて説明します。マイナー・バージョンアップについても、WebSphere Process Server インフォメーション・センターの「インストール (Installing)」>「製品保守の適用 (Applying product maintenance)」を参照してください。

WebSphere Process Server には、既存のアプリケーション・ソース成果物を WebSphere Process Server 成果物にマイグレーションするためのマイグレーション・ツールが含まれています。これらのツールは、WebSphere Integration Developer の「ファイル」->「インポート...」ウィザードから利用できます。

以下の先行製品から WebSphere Process Server へのマイグレーションがサポートされています。

- WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1 および 5.1.1。アプリケーションのソース・コードのマイグレーション方法については、WebSphere Integration Developer インフォメーション・センターを参照してください。
- WebSphere MQ Workflow バージョン 3.6。(詳細については、WebSphere Integration Developer インフォメーション・センターを参照してください。)

IBM® developerWorks® の「テクニカル・ライブラリー」(<http://www.ibm.com/developerworks>) でも、マイグレーションに役立つ記事を見つけることができます。

注: WebSphere Business Integration Server Foundation から WebSphere Process Server へのマイグレーションは、ソース成果物のマイグレーションによるのみ達成できます (手動または提供されるマイグレーション・ツールの支援で)。既存の WebSphere Business Integration Server Foundation 構成を WebSphere Process Server に適用することは可能ですが、これらの構成は手動でセットアップする必要があります。構成データをマイグレーションする自動ツールはありません。

表 1. マイグレーション・パスの概説

マイグレーション・パス	説明
WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1 および 5.1.1。	Migration wizard from WebSphere Integration Developer を使用して、 WebSphere Application Server Developer Integration Edition サービス・プロジェクトをアクティブな WebSphere Integration Developer ワークスペース内のプロジェクトにマイグレーションします。詳細については、WebSphere Integration Developer インフォメーション・センターを参照してください。
WebSphere MQ Workflow バージョン 3.6。	マイグレーション・ウィザードまたは FDL2BPEL ユーティリティを使用して、すべての WebSphere MQ Workflow の成果物を WebSphere Integration Developer の配置可能な成果物にマイグレーションします。詳細については、WebSphere Integration Developer の資料を参照してください。
WebSphere MQ Workflow version 3.5 or earlier	最初に WebSphere MQ Workflow バージョン 3.6 にマイグレーションする必要があります。

関連情報

5 ページの『第 2 章 使用すべきでないフィーチャー』

このセクションでは、WebSphere Process Server バージョン 6.0 を構成する、WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1 および WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0 などの製品の中で、使用すべきでないフィーチャーについてまとめています。他の WebSphere Application Server バージョン 5.x および 6.x 製品の使用すべきでないフィーチャーについては、それらの製品の資料で説明されています。これらの項目が使用可能になった場合、使用すべきでないフィーチャーから移行できるように、追加情報へのリンクが提供されます。

第 2 章 使用すべきでないフィーチャー

このセクションでは、WebSphere Process Server バージョン 6.0 を構成する、WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1 および WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0 などの製品の中で、使用すべきでないフィーチャーについてまとめています。他の WebSphere Application Server バージョン 5.x および 6.x 製品の使用すべきでないフィーチャーについては、それらの製品の資料で説明されています。これらの項目が使用可能になった場合、使用すべきでないフィーチャーから移行できるように、追加情報へのリンクが提供されます。

関連概念

1 ページの『第 1 章 マイグレーションの概要』

マイグレーションとは、製品の構成情報とユーザー・アプリケーションをある製品から別の製品へ、またはある製品バージョンから同じ製品の別のバージョンへ保存するために使用される手順です。既存のアプリケーションおよび構成情報を新しい環境で使用するには、それらを前の製品から WebSphere Process Server へ、または前のバージョンの WebSphere Process Server から新しいバージョンの WebSphere Process Server へマイグレーションする必要があります。

廃止リスト

ここでは、以下のバージョンおよびリリースで使用すべきでないフィーチャーについて説明します。

- 6 ページの『WebSphere Process Server バージョン 6.0.2 で使用すべきでないフィーチャー』
- 7 ページの『WebSphere Process Server バージョン 6.0.1 で使用すべきでないフィーチャー』
- 8 ページの『WebSphere Process Server バージョン 6.0 で使用すべきでないフィーチャー』
- 11 ページの『WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1.1 で使用すべきでないフィーチャー』
- 11 ページの『WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1 で使用すべきでないフィーチャー』
- 13 ページの『WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0.2 で使用すべきでないフィーチャー』
- 13 ページの『WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0.1 で使用すべきでないフィーチャー』
- 13 ページの『WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0 で使用すべきでないフィーチャー』

以下のテーブルに、使用すべきでないものをバージョンおよびリリースごとにまとめました。各テーブルに、非推奨の影響のあるバージョンとリリース、および使用すべきでないもの（フィーチャー、API、スクリプト・インターフェース、ツール、

ウィザード、公開された構成データ、命名 ID、定数などを示しています。可能なところでは、推奨マイグレーション・アクションが提供されています。

WebSphere Process Server バージョン 6.0.2 で使用すべきでないフィーチャー

Human Task Manager
<p>タスク・コンテキスト変数 <code>%htm:task.clientDetailURL%</code> が不要になりました。このため非推奨になりました。</p> <p>推奨されるマイグレーション・アクション</p> <p>アクションは不要です。</p>
<p>TEL でのすべてのエスカレーション E メールに使用される標準の E メール実装が推奨されなくなり、これに代わって TEL での E メール定義用の固有のサポートが提供されています。</p> <p>推奨されるマイグレーション・アクション</p> <p>エスカレーションについては、カスタマイズ可能な E メール新機能を使用してください。</p>
<p>バージョン 6.0 では非推奨であった以下のタスク・オブジェクト・メソッドが、非推奨ではなくなりました。</p> <p><code>getInputMessageType()</code> <code>getOutputMessageType()</code></p> <p>推奨されるマイグレーション・アクション</p> <p>これらのメソッドが使用できるようになりました。</p>
Business Process Choreographer
<p>Generic Business Process EJB API インターフェース <code>ActivityInstanceData</code>、<code>ProcessInstanceData</code>、および <code>ProcessTemplateData</code> において、メソッド <code>getProcessAdministrators()</code> は推奨されません。</p> <p>推奨されるマイグレーション・アクション</p> <p>これらに対応する以下の新しいメソッドを使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>HumanTaskManagerService</code> インターフェースの <code>getUsersInRole()</code> メソッドと組み合わせて使用する <code>getProcessAdminTaskID()</code>。以下に例を示します。 <p style="margin-left: 20px;"><code>htm.getUsersInRole(actInstData.getProcessAdminTaskID(), WorkItem.REASON_ADMINISTRATOR)</code></p> • <code>HumanTaskManagerService</code> インターフェースの <code>getUsersInRole()</code> メソッドと組み合わせて使用する <code>getAdminTaskID()</code>。以下に例を示します。 <p style="margin-left: 20px;"><code>htm.getUsersInRole(procInstData.getAdminTaskID(), WorkItem.REASON_ADMINISTRATOR)</code></p> • <code>HumanTaskManagerService</code> インターフェースの <code>getUsersInRole()</code> メソッドと組み合わせて使用する <code>getAdminTaskTemplateID()</code>。以下に例を示します。 <p style="margin-left: 20px;"><code>htm.getUsersInRole(procTemplData.getAdminTaskTemplateID(), WorkItem.REASON_ADMINISTRATOR)</code></p>

Generic Business Process EJB API の BusinessFlowManagerService インターフェースおよび Generic Task EJB API の HumanTaskManagerService インターフェースでは、以下のメソッドは推奨されません。

- query(String storedQueryName, Integer skipTuples)
- query(String storedQueryName, Integer skipTuples, Integer threshold)

推奨されるマイグレーション・アクション

これらに対応する以下の新しいメソッドを使用してください。

- query(String storedQueryName, Integer skipTuples, List parameters)
- query(String storedQueryName, Integer skipTuples, Integer threshold, List parameters)

以下の JACL スクリプトは推奨されません。

- deleteAuditLog.jacl
- deleteInvalidProcessTemplate.jacl
- deleteInvalidTaskTemplate.jacl
- queryNumberOfFailedMessages.jacl
- replayFailedMessages.jacl
- cleanupUnusedStaffQueryInstances.jacl
- refreshStaffQuery.jacl

推奨されるマイグレーション・アクション

推奨されない各 JACL スクリプトについては、対応する Jython スクリプトが新しく提供されています。この Jython スクリプト (*.py) (<install_root>/ProcessChoreographer/admin ディレクトリー内にあります) を使用してください。

SCA 管理コマンド

以下のコマンド (wsadmin を介して使用される) は推奨されません。

- configSCAForServer
- configSCAForCluster

推奨されるマイグレーション・アクション

これらに相当する機能が必要な場合は、configSCAForServer の代わりに、以下の 2 つのコマンドを使用してください。

- configSCAAsyncForServer
- configSCAJMSForServer

これらに相当する機能が必要な場合は、configSCAForCluster の代わりに、以下の 2 つのコマンドを使用してください。

- configSCAAsyncForCluster
- configSCAJMSForCluster

注: configSCAAsync* コマンドで構成されていないサーバーやクラスターでは、SCA モジュールが正常に配置されないため、このコマンドは必須です。 configSCAJMSForServer コマンドおよび configSCAJMSForCluster コマンドはオプションですが、SCA JMS の機能が必要な場合に限って、これらのコマンドを使用する必要があります。

WebSphere Process Server バージョン 6.0.1 で使用すべきでないフィーチャー

WebSphere Process Server バージョン 6.0.1 には、使用すべきでないフィーチャーはありません。

WebSphere Process Server バージョン 6.0 で使用すべきでないフィーチャー

アプリケーション・プログラミング・モデルおよびコンテナ・サポート・フィーチャー

BRBeans コンポーネントは使用すべきではなく、新たなビジネス・ルールと差し替えられます。

推奨されるマイグレーション・アクション

ユーザーは、使用されているすべての BRBeans を手動で除去し、新しいビジネス・ルールに移行する必要があります。

バージョン 6 で、一部の BPEL ビジネス・プロセス・モデル構成体が構文的に変更されました。WebSphere Integration Developer バージョン 6.0 では、新たな構文のみがサポートされます。これらの構成体のマイグレーションが可能です。

推奨されるマイグレーション・アクション

WebSphere Integration Developer 提供のマイグレーション・ウィザードを使用して、WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1 のサービス・プロジェクト (プロセス定義を含む) を WebSphere Process Server バージョン 6.0 にマイグレーションしてください。マイグレーション・ウィザードが完了したら、いくつかの手動ステップを実行してマイグレーションを完成させる必要があります。サービス・プロジェクトのマイグレーションの詳細については、WebSphere Integration Developer バージョン 6.0 のインフォメーション・センターを参照してください。

WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1 には、取り消しサービスの入力用のオプションがあります。この取り消しサービスでは、出力データによってオーバーレイされる、補正可能なサービスの入力データをマージした結果のメッセージを暗黙的に提供します。BPEL が提供する拡張補正のサポートを前提として、この機能は推奨されません。

推奨されるマイグレーション・アクション

新しいビジネス・プロセスの BPEL 補正を使用してください。

Business Flow Manager の機能性の変更のため、WebSphere Process Server バージョン 6.0 の汎用プロセス API では、以下のメソッドは推奨されません。

- WorkList オブジェクトの名前が StoredQuery に変更されました。その結果、BusinessFlowManager Bean で以下のメソッドを使用すべきではありません。該当する場合、ただちに WebSphere Process Server バージョン 6.0 を使用する必要のあるメソッドを以下に示します。
 - newWorkList(String workListName, String selectClause, String whereClause, String orderByClause, Integer threshold, TimeZone timezone)
 代替りのメソッド: createStoredQuery(String storedQueryName, String selectClause, String whereClause, String orderByClause, Integer threshold, TimeZone timezone)
 - getWorkListNames()
 代替りのメソッド: getStoredQueryNames()
 - deleteWorkList(String workListName)
 代替りのメソッド: deleteStoredQuery(String storedQueryName)
 - getWorkList(String workListName)
 代替りのメソッド: getStoredQuery(String storedQueryName)
 - executeWorkList(String workListName)
 代替りのメソッド: query(String storedQueryName, Integer skipTuples)
 - getWorkListActions()
 サポートされません。
- WorkListData オブジェクトは推奨されません。
 代わりに、StoredQueryData を使用してください。
- ProcessTemplateData オブジェクトの以下のメソッドは、サポートされなくなりました。
 getInputMessageTypeSystemName()
 getOutputMessageTypeSystemName()
- ProcessInstanceData オブジェクトの以下のメソッドは、サポートされなくなりました。
 getInputMessageTypeSystemName()
 getOutputMessageTypeSystemName()
- ActivityInstanceData オブジェクトの以下のメソッドは、サポートされなくなりました。
 getInputMessageTypeSystemName()
 getOutputMessageTypeSystemName()
- ActivityServiceTemplateData オブジェクトの以下のメソッドは、サポートされなくなりました。
 getInputMessageTypeSystemName()

推奨されるマイグレーション・アクション

代替りのメソッドがある場合は、そのメソッドを使用してください。

Human Task Manager の機能性の変更のため、WebSphere Process Server バージョン 6.0 の汎用プロセス API では、以下のメソッドは推奨されません。

- HumanTaskManager Bean では、以下のメソッドは使用すべきではありません。WebSphere Process Server バージョン 6.0 で使用する代替のメソッドを以下に示します。

- createMessage(TKIID tkiid, String messageTypeName)

代わりに、createInputMessage(TKIID tkiid)、 createOutputMessage(TKIID tkiid)、 createFaultMessage(TKIID tkiid) の個別のメソッドを使用してください。

- createMessage(String tkiid, String messageTypeName)

代わりに、createInputMessage(String tkiid)、 createOutputMessage(String tkiid)、 createFaultMessage(String tkiid) の個別のメソッドを使用してください。

- Task オブジェクトで、以下のメソッドがサポートされなくなりました。

- getInputMessageTypeNames()

- getOutputMessageTypeNames()

推奨されるマイグレーション・アクション

代替のメソッドがある場合は、そのメソッドを使用してください。

以下のデータベース・ビューは推奨されません。

- DESCRIPTION
- CUSTOM_PROPERTY

推奨されるマイグレーション・アクション

新しいアプリケーションでは、DESCRIPTION ビューの代わりに TASK_DESC ビューを、CUSTOM_PROPERTY ビューの代わりに TASK_CPROP ビューを使用してください。

Java™ コードの断片のプログラミング・モデル

- WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1 では、インライン Java コードの断片 (アクティビティおよび条件) 内部の BPEL 変数に、getter メソッドおよび setter メソッドを通じてアクセスします。これらのメソッドはサポートされません。Java コードの断片内の BPEL 変数を表すために使用される WSIFMessage メソッドも、サポートされません。
- メソッド <typeOfP> getCorrelationSet<cs> Property<p>() は、スコープ・レベルで宣言された相関セットを考慮しないため、サポートされません。プロセス・レベルで宣言された相関セットにアクセスする場合のみ使用可能です。
- Java 断片アクティビティ内部のカスタム・プロパティにアクセスする WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1 メソッドはサポートされません。
- 以下の getPartnerLink メソッドはサポートされません。スコープ・レベルで宣言されたパートナー・リンクを考慮していないため、プロセス・レベルで宣言されたパートナー・リンクにアクセスする場合にのみ使用可能です。

- EndpointReference getPartnerLink();

- EndpointReference getPartnerLink(int role);

- void setPartnerLink(EndpointReference epr);

推奨されるマイグレーション・アクション

WebSphere Integration Developer 6.0 提供のマイグレーション・ウィザードを使用して、WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1 のサービス・プロジェクト (プロセス定義を含む) を WebSphere Process Server バージョン 6.0 にマイグレーションしてください。マイグレーション・ウィザードが完了したら、いくつかの手動ステップを実行してマイグレーションを完成させる必要があります。サービス・プロジェクトのマイグレーションの詳細については、WebSphere Integration Developer バージョン 6.0 のインフォメーション・センターを参照してください。

アプリケーション・サービス・フィーチャー

拡張メッセージング・サービス・フィーチャー、および以下にリストしたすべての EMS/CMM API と SPI は使用すべきではありません。

com/ibm/websphere/ems/CMMCorrelator
com/ibm/websphere/ems/CMMException
com/ibm/websphere/ems/CMMReplyCorrelator
com/ibm/websphere/ems/CMMRequest
com/ibm/websphere/ems/CMMResponseCorrelator
com/ibm/websphere/ems/ConfigurationException
com/ibm/websphere/ems/FormatException
com/ibm/websphere/ems/IllegalStateException
com/ibm/websphere/ems/InputPort
com/ibm/websphere/ems/OutputPort
com/ibm/websphere/ems/transport/jms/JMSRequest
com/ibm/websphere/ems/TimeoutException
com/ibm/websphere/ems/TransportException
com/ibm/ws/spi/ems/CMMFactory
com/ibm/ws/spi/ems/format/cmm/CMMFormatter
com/ibm/ws/spi/ems/format/cmm/CMMParser
com/ibm/ws/spi/ems/format/Formatter
com/ibm/ws/spi/ems/format/Parser
com/ibm/ws/spi/ems/transport/CMMReceiver
com/ibm/ws/spi/ems/transport/CMMReplySender
com/ibm/ws/spi/ems/transport/CMMSender
com/ibm/ws/spi/ems/transport/MessageFactory

推奨されるマイグレーション・アクション

拡張メッセージング・サービスとその関連ツールを使用する代わりに、標準の JMS API、またはそれと同等のメッセージング・テクノロジーを使用する必要があります。

WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1.1 で使用すべきでないフィーチャー

WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1.1 には、使用すべきでないフィーチャーはありません。

WebSphere Business Integration Server Foundation バージョン 5.1 で使用すべきでないフィーチャー

インストールおよびマイグレーション・ツール

WebSphere Studio Application Developer Integration Edition バージョン 5.0 またはそれ以前にモデルとなっていたビジネス・プロセスは、使用すべきではありません。

推奨されるマイグレーション・アクション

WebSphere Studio Application Developer Integration Edition バージョン 5.1 で提供されている **マイグレーション・オプション**を使用して、ビジネス・プロセスを BPEL 関連のプロセスにマイグレーションしてください。

バージョン 5.0 以前の WebSphere Studio Application Developer Integration Edition で作成されたビジネス・プロセスで使用される、いくつかの Business Process Choreographer API インターフェースおよびメソッド。

推奨されるマイグレーション・アクション

これらの API インターフェースおよびメソッドの詳細なリストが必要な場合は、Business Process Choreographer で提供される Javadoc を参照してください。

アプリケーション・プログラミング・モデルおよびコンテナ・サポート・フィーチャー

以下の public クラス、メソッド、および属性を含むビジネス・ルール Bean プログラミング・インターフェースは使用すべきではありません。

- public クラス:
 - com.ibm.websphere.brb.RuleImporter
 - com.ibm.websphere.brb.RuleExporter
- public メソッド:
 - getLocalRuleManager() on class com.ibm.websphere.brb.TriggerPoint
- Protected 属性:
 - ruleMgr on class com.ibm.websphere.brb.TriggerPoint

推奨されるマイグレーション・アクション

アクションは不要です。

以下の com.ibm.websphere.scheduler クラス・プログラミング・インターフェースの scheduler.Scheduler メソッドは使用すべきではありません。

```
public BeanTaskInfo createBeanTaskInfo();  
public MessageTaskInfo createMessageTaskInfo();
```

推奨されるマイグレーション・アクション

以下のメソッドを使用します。

```
public Object createTaskInfo(Class taskInfoInterface) throws TaskInfoInvalid;  
BeanTaskInfo ti = (BeanTaskInfo) Scheduler.createTaskInfo(BeanTaskInfo.class);
```

Web サービスのゲートウェイ・カスタマイズ API は使用すべきではありません。

推奨されるマイグレーション・アクション

アクションは不要です。ただし、可能であれば、フィルターなどの Web サービスのゲートウェイ固有のインターフェースではなく、XML ベースのリモート・プロシージャ・コール (JAX-RPC) のハンドラー用の Java API を使用してください。Web サービスのゲートウェイ API は、将来のリリースでは置き換えられる予定です。詳細については、WebSphere Business Integration Server Foundation インフォメーション・センターにあるトピック『JAX-RPC handlers - An alternative to gateway filters』を参照してください。

WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0.2 で使用すべきでないフィーチャー

アプリケーション・プログラミング・モデルおよびコンテナ・サポート・フィーチャー

以下の `com.ibm.websphere.scheduler` クラス・インターフェース `scheduler.MessageTaskInfo` は使用すべきではありません。

```
public int setJMSPriority();
```

推奨されるマイグレーション・アクション

使用すべきでないメソッドの代わりに以下のメソッドを使用してください。

```
public int getJMSPriority();
```

WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0.1 で使用すべきでないフィーチャー

WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0.1 には、使用すべきでないフィーチャーはありません。

WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0 で使用すべきでないフィーチャー

WebSphere Application Server Enterprise Edition バージョン 5.0 には、使用すべきでないフィーチャーはありません。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation 577 Airport Blvd., Suite 800 Burlingame, CA 94010 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願います。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。© (お客様

の会社名) (西暦年)。このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_。 All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。

一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

警告: 診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

商標

IBM および関連の商標については、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

この製品には、Eclipse Project (<http://www.eclipse.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。



WebSphere Process Server for z/OS バージョン 6.0.2



Printed in Japan